

■調査期間 令和元年8月29日～9月12日
 ■調査対象 県内に居住する満18歳以上の5,000人(住民基本台帳から年代別に無作為抽出)
 ■回答者数 2,504人(回収率 50.08%)

1. 県民の価値観

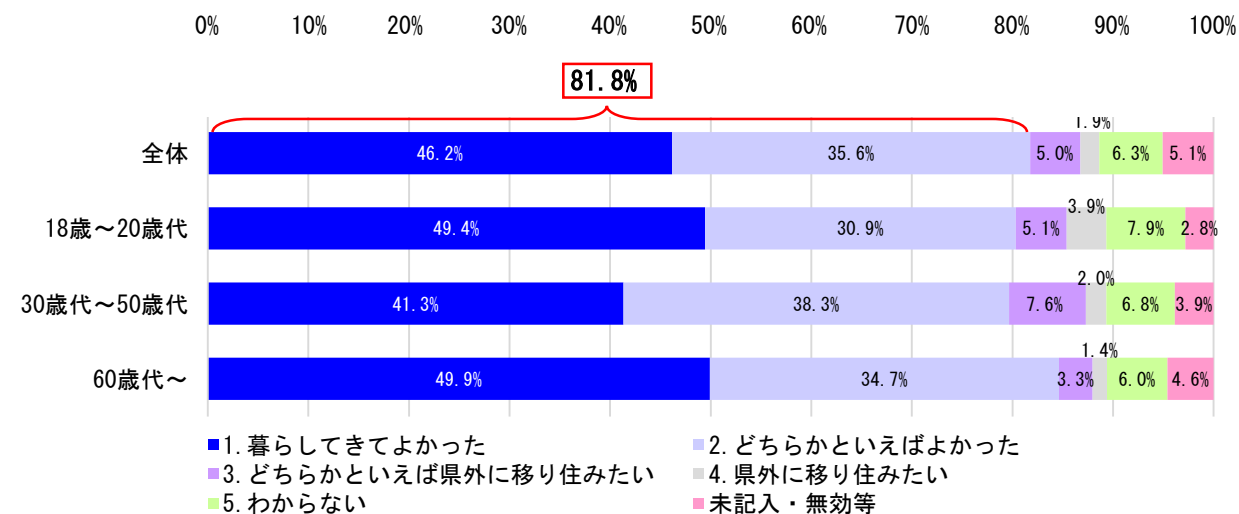
<大切なこと> 問1関係
 ・日々の生活の中で、「家族との触れ合い」、「経済的な豊かさ」、「自分の好きなように生活」を大切に考えている。
 ・「福井県将来ビジョン」に関するアンケート調査(以下2010年調査という)との比較では、「経済的な豊かさ」(27.9%(3位)→29.4%(2位))、「自分の好きなように生活」(19.0%(5位)→25.8%(3位))の割合が増えた。

<豊かさの定義> 問2関係
 ・「心身の健康」、「安定した家族関係」、「生きがいや目標を持った生活」を豊かさであると考えている。
 ・上位3項目については、2010年調査からの変化はなかった。

<消費の志向> 問3関係
 ・「健康・医療」、「食」、「趣味・レジャー」に積極的にお金を使いたいと考えている。
 ・2010年調査との比較では、「食」(31.5%(3位)→38.2%(2位))、「趣味・レジャー」(32.1%(2位)→37.6%(3位))の順位が入れ替わった。

2. 暮らしの満足度 問11,12関係

・2010年調査に引き続き県民の8割以上が福井での暮らしに満足しているという結果になった。
 ・福井の良いところとして「豊かな自然環境」、「災害や犯罪が少なく安心」、「温かい人間関係を大切にしている」が上位3項目を占め、2010年調査からの変化はなかった。



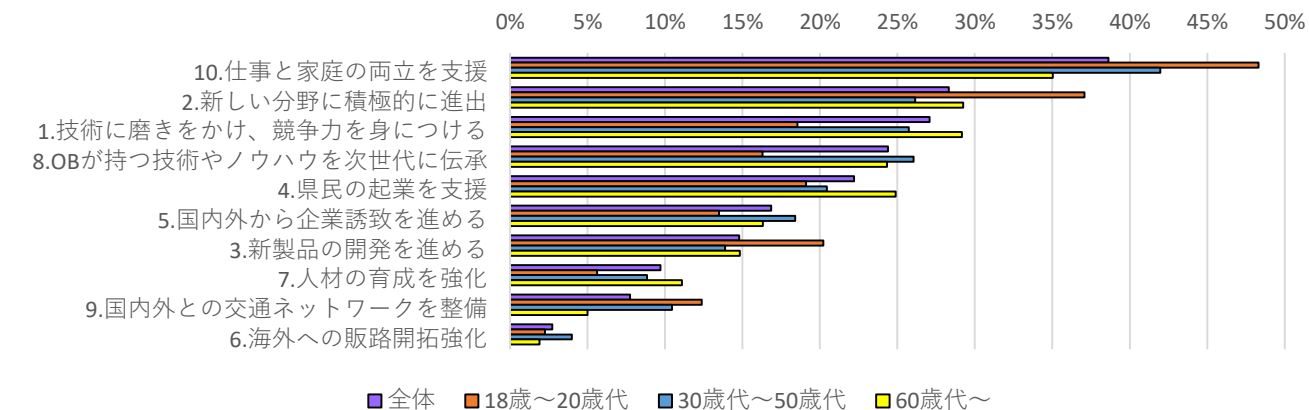
3. 県民の希望 問18,19関係

・将来の福井に、「道路や鉄道などの交通基盤の整備」、「福祉・医療サービスの充実」、「災害や犯罪が少なく安心して暮らせること」を願っている。
 ・18歳～20歳代を見ると、「商業施設等の充実」、「娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる」を希望する割合が高くなっている。
 ・2010年調査との比較では「道路や鉄道などの交通基盤の整備」(27.1%(5位)→38.9%(1位))の割合が増えた。
 ・一方で、「人口減少による集落の縮小」、「産業が衰退し、働く場が不足する」、「福祉や医療サービスの不足」について将来不安を感じており、特に「人口減少による集落の縮小」について、2010年調査から大幅に割合が増えた(45.3%(2位)→62.8%(1位))。

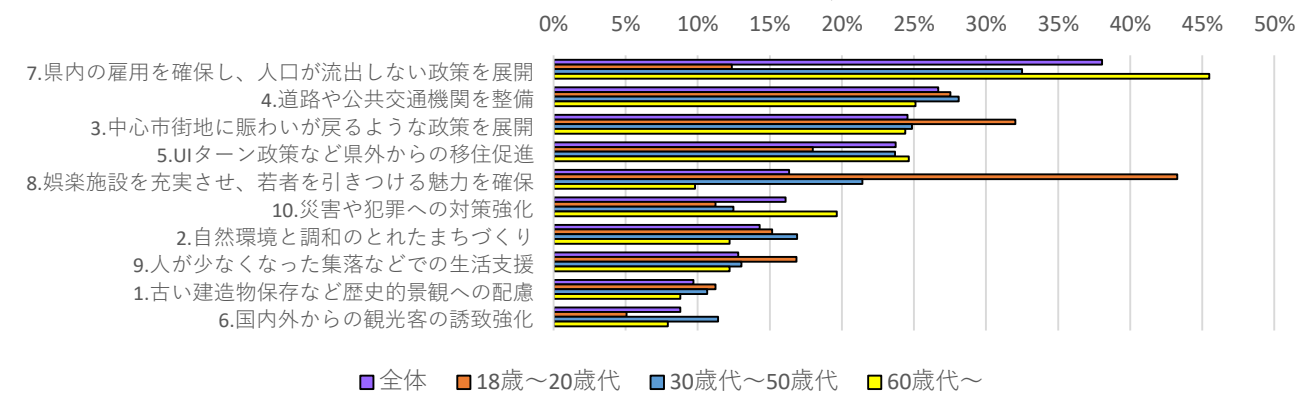
4. 県民が必要と考える方策

<人材育成> 問20関係
 ・福井の将来に向けてどのような人を育成すべきかについて、「ふるさと福井に愛着や誇りを持ち、地域に貢献する人」、「実践的な能力を身に着けた人」が9割を超えた。

<産業活性化> 問21関係
 ・産業活性化のための方策として、「働きやすい職場環境づくり」、「県内企業が新しい分野に積極的に進出」、「県内企業が持つ優れた技術に磨きをかけ、競争力を身につけること」が上位に挙げられた。



<まちづくり> 問22関係
 ・将来に向けたまちづくりの方策として、「雇用の確保などによる人口流出への対応」、「道路や公共交通機関の整備」、「中心市街地の賑わいづくり」が上位に挙げられた。



5. 人口減少対策として必要と考える方策 問23,24関係

・自然減対策としては「育児や教育にかかる経済的負担への支援」、「若者の出会いの場の提供などの結婚支援」、「産前・産後休暇や育児休業が取得しやすい職場環境の整備を支援」が上位に挙げられた。
 ・社会減対策としては「若者や女性に人気のある仕事を増やすこと」、「県外大学との連携を強化し、県内企業の情報を学生に直接伝える仕組みを整備」、「県外に住む本県出身者に福井の情報を定期的に発信することにより、本県へのUターンを促進」が上位に挙げられた。

